

文章を書く

野瀬 隆平

仲間と文章を書く勉強を始めて二十年近くになる。

自分の書いた文章を持ち寄って、互いに批評し合いより良い文章に仕上げて行く。短い文章とはいえ、月に二回のペースで新しい課題で文章を書くことは容易ではない。当初は苦しいと思うことも多かったが、次第に文章を推敲しより良いものに創り上げる楽しみの方が大きくなってきた。

さて、文章を書くにあたって、どんなことに留意しているか。

1. 平易な言葉で書かれていて、すらすらと読めるか。
2. 取り上げている主題が興味を引き、読みたくなるようなものであるか。
3. 独自の視点を持っているか。
4. 具体的であるか。
5. 題名や文章の書き出しが興味をひくものであるか。
6. 読んだ後に心に残るものがあるか。

これは、『文章心得帖』と題して二〇〇九年に書いた文章の要旨である。今でも、この考えは変わっていない。ただ、あえて云うならば次の二つを加えたい。

1. 読む人の立場に自分を置いて、その人と対話あるいは意見を戦わすようなつもりで文章を構築する。そうすることで、かえって独創性が深まり、新たな発想「ひらめき」が湧いてくるように思える。「独自の視点」から更に一歩進んだ観点ではなかろうか。
2. 読んで聴く音のほかに、目から入る視覚的要素を考えて一枚の紙の上にバランスよく表現する。段落、行あけ、句読点の使い方、漢字・ひらがな・カタカナや英文字の割合、更には余白の取り方など。

すべての条件を満たすことは難しいけれど、目標として掲げて置きたい。逆に、文章を書くときに、注意して避けるようにしていることがある。それは、「陳腐な紋切り型の表現をしないこと」「文末が同じ終わり方で、単調にならないこと」と「文章の最後で、逃げを打っているような表現をしないこと」である。

ありきたりの条件になってしまった。これでは、独自の視点を持っていないと云われそうだ。皆さんはどんなことに留意して文章を書いておられますか。